

## モニタリングシート（院・表現文化専攻）

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
1	前年度の向上・改善施策の実施状況（成果・課題・継続事項）はどのような状況であるか。	点検・評価課題に対する向上・改善施策	向上・改善施策を踏まえ、専攻会議で共通理解を図り、前年度までの課題の解決に当たった。特に専攻の授業の質の一層の向上に寄与する中間・成果発表会を継続的に行うとともに、専攻説明会を2回実施し、例年の2.0倍の入学生を得られたことから、この取組を着実に継続する。	大学院改組に向けた具体的な方向性の検討を加速させていく。	在籍院生増加に対応し、中間発表会を2回に分けて実施し、修士研究推進を一層きめ細かく進められるよう、専攻全体としての指導体制を充実させる。
2	定員充足の状況はどのような状況か。	定員充足率データ	今年度は、昨年度の2倍の6人の入学者を確保できた。その要因として入学者向けの専攻説明会を年2回実施し、さらに秋期と春期の年2回の入試を実施したことが考えられ、今後もこれらを継続して実施し、定員の充足をめざす。	今年度6人の学生を確保したとはいえ、定員の8人を充足はしていない。また、本専攻は音楽・言語・造形・身体表現の四つの柱で構成されているが、入学者は音楽領域に偏っており、他領域の学生を確保することも今後の課題である。	学生募集のための動画を作成し使用する。また、引き続き複数回の説明会を実施する。
3	DP・CPと関連したカリキュラムが適切に設計されているか。	履修要項等の各種データ	DPとCPをふまえたカリキュラムになっている。特に、4つの柱となる領域をバランスよく学ぶことができると考える。	大学院生の専門が偏っているために、音楽以外の領域の授業では、アートのベースになるような授業内容になる傾向がある。	音楽以外の領域の大学院生を確保していくことが目標となる。
4	DPに沿って設定された各学位プログラムレベルにおけるカリキュラムについて、適切に実施されているか。	・履修状況等の各種データ ・大学院アンケート結果	院生アンケートにおいて、受講した授業への評価ならびに大学院での学びの総体への評価が、概ね良好な回答を得ている。DPとの関係も適切かつ院生のニーズにも合致するカリキュラムが、概ね実現されていると判断できる。	アンケートで、授業内容への期待との合致については、概ね良好な回答結果であったものの、「大変あてはまる」の回答を「やや当てはまる」が2倍上回っている。今後の課題としては、個々の授業の内容・質のさらなる向上が指摘できよう。	DPとの関連を踏まえつつ、カリキュラムのさらなる充実を図るべく、個々の授業内容をさらに精査し、質の向上を目指していく。

5	学修成果の到達度の把握はどのよう におこなっているか。	学修成果の把握の取り組み等 大学院アンケート結果	M1M2ともに前期後期に1回ずつ修士論文中間発表会 を実施してきた。論文提出前に研究内容を吟味する機 会があることで研究の完成度が高まる他、学生間で良 い刺激となり研究のモチベーションを高めている。ま た昨年度は同様に、学生が主体的に上演発表の機会を つくり、パフォーマンス・アーツの研究を深めてい る。	研究遂行に問題を抱える学生 へのフォローアップ体制が今 後望まれる。	指導の進捗状況について教員間で情報 共有を行い、必要に応じて教員が相互 に支援する場を設ける。
6	各科目の成績および論文・研究が 適切に評価されているか。	・成績評価に関する取り組 み等 ・大学院アンケート結果	アンケート結果は、専攻毎にはないため厳密には分 析できないが、成績評価に関する項目では「適正」 「自己評価より高い」が92.5%を占めており、概ね適 切な評価が行われていると考えられる。また、修士研 究における審査は、多様な領域の教員による論文査 読・口頭試問を通して厳正に行われており、特に大き な問題はないと考える。	成績、論文、研究等を適切に 評価する取り組みについて は、専攻全体として具体的に 行っているとは言い切れな い。	専攻全体の単位で、評価基準等につい て、あらためて確認しておく必要があ る。
7	職位構成・年齢構成のバランス、 非常勤比率に留意し、かつカリキ ュラムに基づく教員組織となってい るか。	・所属教員の状況 ・科目群別非常勤比率	教員の職位、年齢、性別について顕著な偏りはなくバ ランスがとれており、非常勤比率も2019年度以降毎 年着実に下がっている。カリキュラム・ポリシーを踏 まえた4領域において適切な教員配置が行われてお り、大きな問題はない。	特になし	特になし
8	課題認識および外部環境を踏まえ た独自のFD活動を実施できている か。	・FD取り組み状況 ・前年度点検シート ・点検・評価課題に対する 向上・改善施策	直接的なFDではないが、年2回、専攻として入学希望 者向けの説明会を実施している。授業上の工夫について 説明したり、相互の授業実践の交流ができるようにして いる。定期的な専攻会議において、情報を共有し、検証 を行っている。	大学院に特化したFD活動が 今後行えれば良いと思う。	専攻としての入学希望者への説明会は 今年も実施している。今後も継続的に 実施していきたいと考えている。
9	上記以外で「継続すること」「課 題」「次へのアクション」「全学レ ベルで検討すべき事項(提案)」が あれば入力。	・各種データ	特になし	・学内推薦者と外部受験者の バランスや、指導教員に対す る大学院生の数のバランス。 ・学内推薦における共通規定 の検討	・定員未充足への対応検討に併せて、 指導教員に対する院生数のバランスも 検討する。 ・大学院改組の検討をする。